

P T A活動と私

(弘前市教育委員会 教育委員 齋藤 由紀子)

今年度より教育委員を仰せつかりました、齋藤由紀子と申します。どうぞよろしくお願いたします。高校生と小学生の子どもの保護者ですので、日頃よりお世話になっておりますP T A活動についてお話ししたいと思います。

P T A活動とは誰のために行うのでしょうか。子どものため。学校のため。やらないといけないから。人それぞれ様々な回答があるでしょう。私はP T A活動に救われた1人であり、自分のためでもあるように思います。

娘が小学校3年生の時に弘前市に転居してきました。娘は初日からお友達ができましたが、私は知り合いのいない町で寂しく過ごしており、宿題のやり方の違いや学校行事等、様々な事が分からずに戸惑っておりました。そんな中、勇気を出して参加したのがベルマーク委員会でした。委員のみなさんは優しくして下さい、学校に関する様々な事を知ることができました。同じような子育ての悩みがある事も共感できました。だんだん活動が楽しくなり、学校やこの町にも慣れ親しんでいきました。

数年後、ある先生の「親は子どもが18歳までしか大きくかかわれないのだよ」というお話に感銘を受け、ベルマーク委員長になる決心をしました。委員みなさんの協力のおかげで、小さな1点も集めると何万点にもなり、様々な物を購入する事ができました。その中でも忘れられないのは、年々暑くなる5月の運動会の熱中症対策としてテントを購入した時の事です。暑さで倒れる子どもを無くしたいと、これまで以上にどの委員も一体となって頑張りました。運動会の日はとても暑い日だったので、全学年がテントに入って暑さをしのげた時は嬉しさで胸がいっぱいになり、委員皆で喜び合いました。

このように、P T A活動を通して、仲間ができたり、活動中に偶然に見た子どもの笑顔にほっとしたり、やりがいや喜びを感じる機会をいただきました。おかげで、私自身の心がとても豊かになったように思います。

今回、学校訪問をさせていただいて、子どもたちの教育は、学校だけにお任せするのではなく、保護者の協力、加えて地域の皆様のお力をお借りして、三者の連携が不可欠であると改めて感じました。お仕事をお持ちの方もいらっしゃいますし、このようなご時世ですので、P T A活動に参加するのは簡単な事ではないと思いますが、子どもたちの安全のための朝のあいさつ運動や、J R Cに寄贈するペットボトルキャップの収集、部活動の補助金となる資源回収等、できる範囲で良いのです。面倒な時もありますが、子どもと共に作業する機会になりますし、学校での様子を間近で見られる特権もあります。

新しい時代を担う子どもたちの育成のために、子どもたちの実情を把握し、保護者の声をお届けするお手伝いが、お世話になっているP T A活動への恩返しであり教育委員としての私の役目だと考えます。今後もP T A活動に積極的に参加し、お役に立てるよう努めたいと思います。